

抗 MAGE-G1 / Necdin-like 2 抗体, ウサギ抗血清 (MG1)

商品コード	74-114
容量	100 µl
保存	-20 °C 凍結融解を避ける
濃度	N/A
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム添加
純度	ウサギ抗血清
抗原	リコンビナント MBT 融合マウス MAGE-G1 (アミノ酸 No. 1-279)
アイソタイプ	ウサギ IgG
反応性	マウス、ラット、ヒトの MAGE-G1
特記事項	N/A
アプリケーション	1. ウェスタンブロッティング (1/1,000-1/3,000 希釈) 2. 免疫沈降 3. イムノアフィニティ精製 その他の用途は試されてない。
背景	MAGE-G1 (melanoma-associated antigen G1 または necdin-like 2) 遺伝子は necdin 相同タンパク質をコードしている。 MAGE-G1 遺伝子は necdin 遺伝子同様、ヒトでは proximal chromosome 15q 領域に位置し、この領域はゲノム・インプリンティングや種々の神経疾患と関連している (文献 1)。これらの発見より、MAGE-G1 は脳の発達に関与しており、その異常は神経発達障害を起こすと考えられているが、MAGE-G1 の生化学的な性質や機能はほとんどわかっていない。 MAGE-G1 は necdin と同様、細胞周期停止を誘導し、細胞増殖を抑制する。MAGE-G1 は necdin 同様、転写因子 E2F1 や p75 neurotrophin receptor (p75NTR) に作用し、脳発達段階における cell viability をコントロールしていると考えられる (文献 2)。マウス MAGE-G1 に対する抗体 (MG1 と命名) がウサギで作られた (文献 2)。
Data Link	UniProtKB Q9CPR8 (マウス), Q96MG7 (ヒト)
文献	この抗体は文献 2 で作られ、用いられた。 - Chibuk TK <i>et al.</i> (2001) "A necdin/MAGE-like gene in the chromosome 15 autism susceptibility region: expression, imprinting, and mapping of the human and mouse orthologues" <i>BMC Genet</i> 2: 22 PMID: 11782285 - Kuwako K <i>et al.</i> (2004) "Necdin-related MAGE proteins differentially interact with the E2F1 transcription factor and the p75 neurotrophin receptor" <i>J Biol Chem</i> 279: 1703-1712 PMID: 14593116
関連製品	#74-100 抗 Necdin 抗体、ウサギポリクローナル #74-112 抗 MAGE-D1 / Dlxin-1 / NRAGE 抗体、ウサギ抗血清 (MD1)
※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。	

画像: 74-114 抗 MAGE-G1 / Necdin-like 2 抗体, ウサギ抗血清 (MG1)

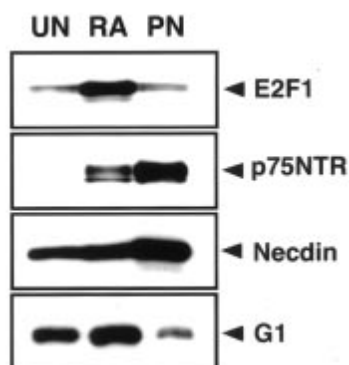


図 1 この抗体を用いた MAGE-G1 のウエスタンブロッティング (文献 2)

種々の神経発達段階における P19 cell の whole cell lysates をウエスタンブロッティングにかけ、E2F1、p75NTR、necdin、MAGE-G1 (G1) を解析した。

UN は未分化 P19 cell; RA は retinoic acid で処理した aggregated cells; PN は enriched postmitotic neurons。

P19 embryonal carcinoma cells は神経分化に際して necdin (43 kDa)、MAGE-G1 (32 kDa)、E2F1 (58 kDa)、p75NTR (68 と 75 kDa) を発現した。MAGE-G1 の発現レベルは retinoic acid 処理 P19 cells において最高であった。

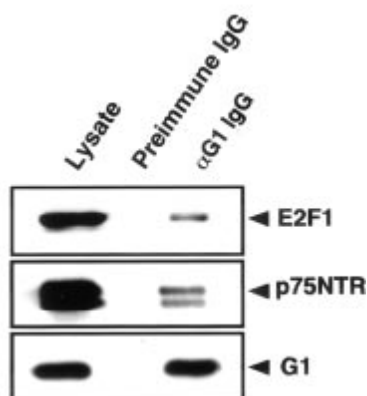


図 2 抗 MAGE-G1 抗体 IgG を用いたイムノアフィニティ精製 (文献 2)

E2F1、p75NTR と MAGE-G1 との endogenous 複合体検出

retinoic acid 処理した P19 cell の lysate を抗 MAGE-G1 IgG (αG1 IgG) または preimmune IgG (Preimmune IgG) イムノアフィニティカラムにかけた。結合したタンパク質を抗 E2F1、抗 p75NTR、抗 MAGE-G1 (G1) 抗体でウエスタンブロットした。

分化した P19 cell において MAGE-G1 は E2F1、p75NTR と endogenous な安定複合体を形成していた。